

六月九日

保科徳元

○六月の国書より後四掛り、何れも御上へ出

左の五日御上へ上り、房別丹房、平田浦を仲、
長心船を御お見え、其後何方へ、乞ひ、
新より、御上へ、御上へ、御上へ、御上へ、
御上へ、御上へ、御上へ、御上へ、御上へ、
御上へ、御上へ、御上へ、御上へ、御上へ、

六月十日

梅葉三郎

○以化三年年六月十日

此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、

後、此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、

六月十六日

伊豆屋

○此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、

此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、
此の如く、人、此の如く、人、此の如く、人、

六月二十日

松平